「落語音読」のススメ
― 英語音読指導の新しい試み ―

国際英語学科教授　　藤澤良行

1　はじめに：英語音読について

英語を音読する学習法については、古くは國弘正雄 (1999:17) が「只管朗読（しかんろうどく）」を提唱し、「ひたすら朗読する」ことで英語が身につくとした[1]。それ以来、この考え方を踏まえた『英会話・ぜったい・音読 CD ブック』を初めとして、英語の音読学習教材が多数出版されている。

音読やシャドウイングの学習効果については、門田修平（2012）などで実証的に研究されてきた。また教室での英語音読指導法が、安木真一（2010）、正頭英和（2015）などで具体的に提唱されている。

2 「落語音読」を知る

2-1「落語音読」とは何か

「落語音読」とは、落語家が上手下手（以下、上下（かみしも）とする）に目線を切り替えて落語を演じるように、英語の対話（ダイアローグ）を音読する練習方法である。

「落語音読」という名称は、筆者が中学校・高等学校の英語教員を対象とした「英語落語」授業セミナーを行う中で偶発的に出て来た呼び名である。筆者はもともと上下をつけながら英語の音読をしていくので「上下音読」と呼んでいたのであるが、「落語音読」とする方が広く理解されやすいという助言があり、近年はずっとこの呼び名を使用している。

具体的には、英語落語を口演してきたプロの落語家たちの言葉を借りることにする。

2-2　英語落語をどのように演じるか

上方落語家の桂あさ吉（2011）、桂かい枝（2016）、そして「異文化コミュニケーション」を専門とする大学教授で英語落語家でもある大島希巳江

(2013) がそれぞれ英語落語のいわゆる教則本を出版している。そこではどのようにして英語落語を演じるかを、それぞれの経験をもとに提案しているので、これらを検討したい。
各氏とも最初は英語小咄の練習から取り組むことを勧めている。落語を演じるための基本形を小咄で身につけ、それを英語落語へ繋ぐことが必要だと考えている。

2-2-1　桂あさ吉 (2011)
桂あさ吉は上下をつける際の注意に関して、以下のように述べている。

> 一般の方に教えていてよくあるのが、上下をつけて演じだすと、途端に首を振ることに気をとられて、肝心の噺の方がおろそかになってしまうということです。(中略) プロの噺家でも細かい演出はそれぞれ違いますが、**大事なのは「自分が何を演じているのかがわかっている」ということです。**(34) (強調は原文のまま)

後半の強調された部分の指摘はとても重要である。本稿の後半で述べるが、これを筆者は「外在化」と呼びたいと考えている。

2-2-2　大島希巳江 (2013)
大島は登場人物を演じ分けることに関して、以下のように述べている。

> 登場人物を演じ分ける上で重要なことは、まず登場人物の年齢、職業、性別、性格などをしっかり把握して、その人になりきることです。どのようなキャラクターに仕立てるかは自由ですので、想像力を使って決めていきましょう。(33)

この「英語音読」が「なりきり音読」と考えられる所以である。そのために必要な動作が「上下をつける」ということになる。

2-2-3　桂かい枝 (2016)
桂かい枝は上下をつける際の注意として以下のように説明している。

向きを変えるときは、首を軽く振る程度で大丈夫。目線はあまり下のほうを見すぎず、普通に人と対話している感じにしましょう。(中略)
見ている人に二人の人物を想像させるには、ただ大きく首を動かすよりも、しっかりと同じ位置に目線を定めることが大事です。首を振ったとき、上下でそれぞれ見るものを決めておくといいですよ。(4)

ここでは目線の固定が強調されている。話の流れの中でどの位置に目線を向けるかということも大切なポイントになる。

3　授業への応用

3-1　音読練習パターンとしての「落語音読」

先にあげた安木や正頭の音読指導本には音読の練習方法、授業での指導方法のアイデアが満載である。たとえば「イチゴ読み」、「ペア読み」、「タケノコ読み」など工夫が凝らされた命名であり方法である。「落語音読」はこの中では「キャラクター読み」に分類されるように思われる。

さきに大島のところで挙げたように、また太田洋 (2007: 71) が提案するように、「感情を込めた音読」として登場人物たちになりきって音読をするので「なりきり音読」という表現も「落語音読」に当てはまる。

3-2　「落語音読」の演出を考える

実例として次の英語小咄のダイアローグの演出を考えたい。次の [1] から [3] まではト書きによる指示が入る。

A: [1] One hamburger and a Coke to go, please.
B: Excuse me?
A: [2] One hamburger and a Coke to go, please.
B: Excuse me, Ma'am. This is a library.
A: Oh! I'm sorry. [3] One hamburger and a Coke, please.
(B: SIGH!)

このダイアローグにおいて登場人物 A は同じセリフを 3 回繰り返すが、英

語小咄として笑いを取るためには、どのようにこのセリフを発するのか。とくに [3] は、オチになる部分であるので、そのセリフの言い方に工夫が必要である。

まず、この会話がどこで行われているか。全体を読むと図書館であることがわかる。そうすると A は（実際にはありえないけれど）図書館とハンバーガーショップを混同して、カウンターで注文をしていることが判明する。どちらもカウンターは共通な要素である。（こういうナンセンスは小咄ではよくあることで、こんなことはあり得ないと言ってしまうと身も蓋もないことになる。）

次に登場人物であるが、全体を読むと、お客 A（“Ma'am” と呼びかけられるのでおそらく女性）と図書館員 B（性別不明）だと考えられる。できれば年齢も演者として想像して自分なりに決めておきたいところである。

A の発話を受けて B が問い返していることからわかるように、最初の A のセリフは唐突な感じが必要になる。従って [1] には、たとえば「あわてて、早口で」などのト書きが良さそうである。次の [2] には、A に対してよく分かるように「はっきりと、クリアに」というト書きが入る。それでは [3] には何が入るのだろうか。自分がいるところがどこなのかを初めて理解して、図書館から出て行くのではなく、「図書館では静粛であること」という前提を踏まえて、「小声で、ささやくように」、それでもあくまでハンバーガーと飲み物を注文するというナンセンスに繋ぐと落語らしいオチになる。（小咄としてはここで終わりなのであるが、会話の流れから、B の「やれやれ」という感じを表現する方が英語小咄としては伝わりやすい。）

4 「落語音読」で何が身につくのか

4-1 「内在化」ということ

西本有逸（2012：359）が、ヴィゴツキーやトマセロの理論を踏まえて英語教育の分野での「内在化」を以下のように説明している。

> 英語教育の分野での内在化とは普通、言語知識（語彙・発音・文法等）の長期記憶への貯蔵・保持とその自在な活性化のことを指す。

さらに西本は英語音読による「内在化」について論を深めている。

音読の目的のひとつが言語の内在化にあるとすれば、さらにその言語が母語と異なる異言語としての外国語であればなおさら、その内在化には言語だけでなく、身体性と情動を強く意識化する必要がある。（中略）単なる言語知識だけでなく、音読時に上記の身体感覚や情動が伴ってこそ、内在化が促進されるのではないかと考えられるのである。(360)

「落語音読」に関しても「内在化」を考えることは大切である。小咄を小咄として面白く伝えるためにはどうすればよいのかを考えることがより深い内容理解につながり、それを表現することができれば、その表現は初めて自分のものとなる。セリフを話す人間の感情の流れを把握しておかないと、ダイアローグは小咄として生きてこない。逆に小咄としてのダイアローグを生かすためには、状況に応じたセリフまわしが必要となる。

4-2 「外在化」ということ

音読学習で大切なことは、機械的練習から始まり音読を繰り返しながら、その表現を丸ごと身につけることである。「落語音読」はその発展形であり、上下をつけて頭を動かし、目線を切り替えながら、同時にセリフを発音するという、いわゆる身体表現を伴っているところが特徴である。

先に、桂あさ吉の言葉にあったように、このやり方に慣れるまでは、頭を左右に振る方に気を取られ、肝心のセリフが抜けてしまう弊害が出てしまうが、セリフが十分に自分のものになると、今度はそのセリフをどのように発話するのかのコントロールを考える段階に至る。慣れてくれば、次第にその発話をしている人物の呼吸、話し方、性格なども表現できる。

ここで桂あさ吉の指摘が重要となる。「自分が何を演じているのかを分かっている」ということは、その対話から一歩離れた、いわばメタの視点でその対話を眺める目を持つことが必要となる。これを「内在化」と対照して「外在化」と呼ぶことを提案したい。二人以上の会話を表現する場合に、それが効果的なやりとりになるためには、それぞれの人物を演出する演じ手の視点が必要になる。それぞれの人物を「内在化」し、かつその人物たちをコントロールする、いわば「外在化」とも言える状態に到達することができれば、その音読は落語として成立することになる。

5　英語教科書を「落語音読」してみる

中学校の英語検定教科書の本文の多くはダイアローグでできている。2015年度から新しく改訂された最近の教科書には、さまざまな題材に関するプレゼンテーションが出来るように意図された、登場人物たちによるモノローグも応用として取り入れられているが、多くの新出語彙や新出文法事項の基本的な導入としてはダイアローグ形式を使うことが多く、まずはこれをいかに身につけるかということが課題となる。

ここまで述べてきたように、その際に音読をすることが有効であるが、平板な機械的音読を数回行っただけではその素材が定着することは難しい。別の言葉で言うと、情動を伴ったものでないので、「内在化」にはつながりにくい。

教科書に「その人物になったつもりで演じてみよう」という指示文を見かけるが、その指示文だけで実行できるわけではない。ここに「落語音読」を取り入れると、上下をつける身体の動きを伴って英語を発することになる。そしてセリフの内容を考え表現することで初めて「その人物の気持ちになって」発話ができ、さらに上下をつけて複数の人物を一人で演じることで「外在化」が進むのである。

「落語音読」の練習をすると、形だけのペアワークから逃れることが可能になる。教室でよく出現する風景であるが、AとBの対話で役割が与えられても、生徒は自分の与えられたパートだけをアイコンタクトもなく、ただ棒読みをする。これでは対話練習とは言い難い。「落語音読」にはその弊害を乗り越える「内在化」と「外在化」が存在する。

6　おわりに

「落語音読」を英語学習のステップの一つとして取り入れると、自己学習としての練習をすることになる。英文を繰り返し音読することは特に初級の学習者にとって大切であるが、自己表現を伴う練習をしないと、単なる機械的に繰り返しになるだけで、実感を伴うものにならない。言い換えれば「内在化」が進まず、その表現を身につけることは難しくなる。さらに、どんな表情でそのセリフを発話しているのかを考えながら音読をすることが大切であり、そのために「上下」をつけながら読む練習をすると、「外在化」が進み、

効果が上がる。楽しく英語学習が進むのである。

以上を踏まえて「落語音読」を英語音読指導法の一つとしてオススメする。

注

1　國弘は最初『英語の話し方』(サイマル出版社刊、初版1970年、新版1984年)においてこの表現を使った。

参考文献

大島希巳江 . 2009.『英語で小咄！』東京：研究社 .

_____. 2013.『やってみよう！教室で英語落語』東京：三省堂 .

太田洋 . 2007.『英語を教える 50 のポイント』東京：光村図書 .

門田修平 . 2012.『シャドーイング・音読と英語習得の科学』東京:コスモピア .

桂あさ吉・渡部克義・大矢智子 . 2011.　『はじめての英語落語』東京：国際語学社 .

桂かい枝 . 2016.『桂かい枝の Let's 英語落語』東京：教育出版 .

國弘正雄 . 1999.『國弘流英語の話し方』東京：たちばな出版 .

_____編 . 千田潤一 トレーニング指導 . 2000.『英会話・ぜったい・音読』東京：講談社 .

正頭英和 . 2015.『5 つの分類 × 8 の原則で英語力がぐーんと伸びる！音読指導アイデア BOOK』東京：明治図書 .

鈴木寿一・門田修平 編著 . 2012.『英語音読指導ハンドブック』東京：大修館書店 .

西本有逸 . 2012.「音読による内在化とは？」　鈴木・門田『英語音読指導ハンドブック』356-364.

安木真一 . 2010.『英語力がぐんぐん身につく！驚異の英語音読指導法 54』東京：明治図書 .